

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第七小学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きや言語についての知識・理解を定着させ、文章を書く際に活用させること。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 図書室の本やインターネットで調べたことを、相手に分かりやすいように内容のまとまりで段落をついたり、段落相互の関係に注意したりして、文章を書かせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字は全体指導の後、朝学習や家庭学習、小テストを活用して定着状況を把握する。また、授業中は、国語辞典を使って語彙を増やし、文章を読み返して修正するように指導する。 「はじめ・中・終わり」に分けた構成メモを作り、伝えたいことの中心を考えた上で、文章を書くように指導する。 図書資料を多く使う学習を取り入れ、図書資料を使って調べること慣れさせる。 	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストでは、約8割の児童が8割以上の点数が取れるという成果が見られた。また、新出漢字の指導の際に言葉を集めたり国語辞典の使い方の指導を行ったりすることで、文章で使う言葉が以前より豊かになった。しかし、日常的に使いこなすことに関しては課題があるので、継続して指導する。 <p><思考力・判断力・表現力></p> <ul style="list-style-type: none"> 組立を意識させることで、文章の構成を理解しやすくなり、内容ごとに段落を分けて文章を書く力を高めることができた。
社会	<p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取り、地域の特色を捉えさせること。 <p><知識・理解></p> <ul style="list-style-type: none"> 主な地図記号や八方位についての知識を身に付けられるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館やタブレットPCを活用し、見学・調査したり、地図などの資料で調べたりしてまとめることを繰り返し指導する。 地図帳を使って、自分たちの市の位置を調べたり、白地図にまとめたりする際に必要となる方位や主な地図記号について理解できるようにする。 	<p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取る学習を繰り返すことで、その力を高めることができた。また、タブレットPCを活用し、動画や写真から調べることや見学、体験的な活動を行い、地域の生産者の思いや願いに気付かせることができた。 <p><知識・理解></p> <ul style="list-style-type: none"> 地図を見せたり、方位磁石を使わせたりすることで、主な地図記号や八方位についての知識を身に付けさせることができた。
算数	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 筆算の仕方について理解を深め、計算力を確実に定着させること。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 式、図や絵を使って、自分の考えをわかりやすく表現させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元や毎時間の導入に、既習事項を振り返る時間を確保し、復習問題に取り組む。 朝学習の時間に既習問題の反復練習をし定着を図る。 クラス全体で見通しをもたせ、それを共有してから自力解決に取り組むようにする。 前時の児童の考えを提示し、様々な表現方法があることを示し、自力解決に活かせるようにする。 	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習や毎時間の導入時に既習事項を振り返ることは有効だった。反復練習をしている時は覚えていたが、確実に定着したとまでは言えないので、今後も学習を積み重ねていく必要がある。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> コンパスの使い方は個人差があるため模様を描く活動などを取り入れていく。 式だけでなく、図や絵を使って自分の考えを表現する児童が増えた。1つの考え方だけではなく、他の考え方も考えられる児童が増えた。他の意見と比較検討することは個人差があるので、友達との考えを共有できる時間を確保していく。
理科	<p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決のアプローチを身に付けられるようにすること。 差異点や共通点から問題を見出させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な活動を多く取り入れるとともに、問題解決の過程の中で「理科の見方・考え方」を働かせ、問題を追及していくことを繰り返し、理科の学習の基礎を身に付けることができるように指導する。 比較して考えやすいように、共通点や差異点を分かりやすく板書する。 	<p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 具体策を講じることで、理科の問題解決的な学習の基礎を身に付けさせることができた。実験や観察の結果から物の性質について考察することは、今後も学習を積み重ねていく必要がある。 共通点や差異点を分かりやすく板書することで児童が問題を見出すことはできるようになってきた。しかし、そこから考察し決まりを見付けることに関しては教師による指導や助言を行い、まとめを行った。
音楽	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 呼吸及び発生の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けさせること。 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏させること。 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けること。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 録音した自分たちの歌声を聴き、声の特徴や呼吸の仕方を振り返りながら歌う活動を取り入れるようにする。 楽器の音色や響きを意識しながら、易しいリズムや旋律の演奏から始め、継続的に取り組むようにする。 動画を活用することで、正しい楽器の奏法を学べるようにする。 音楽の仕組みを生かした簡単なリズムあそびを常時活動に取り入れる。 即興的に表現する中で、児童が思い付いた考えを、実際に音に出して確かめていくようにする。 	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 録音や録画したものを聴き、歌い方や楽器の演奏について話し合ったりアドバイスをし合ったりしたことで無理のない歌い方で歌ったり、音色に気を付けて演奏したする技能を身に付けさせることができた。動画を活用したことが有効だった。 リズム遊びを常時活動に取り入れることが不十分だった。年間計画や題材計画を丁寧に練る必要があった。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽づくりの中で、表現を即興的に行うのは難しかった。表現するための知識の習得をする時間が不十分だった。音や体の動きを話し合う時間の確保が必要だった。
図画工作	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具の使い方を再度振り返り、絵の具の濃淡や混色を調整しながら色の違いや組み合わせによる印象の違いに気づかせる。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 今までに習った描画材や身近な材料からできる新しい表現の面白さに気づかせ、積極的に試しながら見え方を工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人絵の具セットの使い方を振り返り、混色や筆の動かし方のバリエーションを提示したり、試したりする機会を設ける。絵の具による色や線の表現の面白さを味わわせる。 自信をもって試したり、失敗することができないと思う子が多いので、何度も試しながら見比べて自分の納得の行く制作活動になるように材料を準備したり、声掛けを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 色の違いや組み合わせによる感じ方の違いに気付かせることができた。水彩絵の具の具の使い方を振り返ったことや、絵の具の濃さやローラーを使った塗りの違いを比較させたことが有効だった。 共用絵の具を使わせたり、材料を余分に準備したりすることで、失敗しても大丈夫という安心感をもたせることができた。積極的に見え方を試す意欲を高めることができた。
体育	<p><技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 発達段階相応の技能を身に付けさせること。 運動に対する意欲を高めさせること。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の課題を見付け、その課題を解決するための活動を工夫するとともに考えたことを友達に伝えさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動やサーキットトレーニングを授業の導入で取り入れることで、基本的な動きや技能を身に付けさせたり、運動の楽しさに触れさせたりする。 技能を高めるための場を多く設定し、自分に合った場を選んで個々の課題に取り組めるようにする。 友達の動きを参考にしたり、自分の動きを振り返ったりする時間を設ける。気付いたことを伝え合うことで、技能を高めることに生かせるように指導する。 	<p><技能></p> <ul style="list-style-type: none"> おおむね発達段階相応の技能の習得をさせることができた。今後、さらに運動する時間を十分に設け、個人の課題に合った指導をすることが必要である。 授業の冒頭で簡単な運動を行うことで、積極的に運動に取り組む姿が見られた。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の後に振り返りを行うことで、自己の課題を解決することにつなげられた児童もいた。しかし、個人差があるため、技能のポイントや友達の動きを見る視点を教師が提示していく必要がある。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを詳しく説明させること。 自分と異なる意見も受け入れ、ねらいとする道徳的価値について考えを深めさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜそう思ったのか。」を適宜問いかけ、そうした考えに至った過程についても言語化させる。 役割演技や動作化なども行いながら、教材文を自分事として捉えさせる。その際、葛藤する登場人物の思いを想像させる。 教材に合わせて思考の流れが分かるようにしたり、中心部分を目立たせたりするなどの板書の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えのわけを問いかけ、詳しく書くことを意識させることで自分の考えを深めさせることができた。 授業の展開で動作化を取り入れるなどの工夫を行うことで、教材文を自分のことと重ねて考えられる児童が増えた。
外国語活動	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 英語を用いて、主体的にコミュニケーションをとることの大切さを理解させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が学習の中で慣れ親しんできた英語を使い、ALTや学級担任、友達など様々な相手とコミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験させる。 	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 各ユニットで学習した英語を使って、発音したり、ゲームを楽しんだりすることで他者とのコミュニケーションを楽しむ素地を養うことができた。
総合的な学習の時間	<p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を見付けたり、情報の収集・整理・分析をしたりして、自分の考えをまとめ、表現させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 時事のニュースや学校での課題を授業や学級活動の中で取り上げ、課題を解決しながら経過していることを実感させる。 学校図書館やタブレット端末を活用し、本、インターネット、インタビュー等の情報収集の仕方に触れる機会を増やす。 クイズ、報告文、パソコンで作成したスライドなどの表現方法を使ってまとめる経験を積み重ねる。 	<p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書やタブレットを状況に応じて使い分けながら、情報収集や整理・統合を行うことができた。 タブレットを使用する場合は、タブレットのハード及びソフトの使い方、情報リテラシーや出典について事前に十分に指導しておく必要がある。

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。